

中秋の名月

2026年の十五夜は、9月25日（金）です。十五夜はもともと農作物の収穫を感謝する行事で、古くはその時期に収穫された里芋やさつまいもなどのイモ類を供えていました。そのため十五夜は「芋名月（いもめいげつ）」とも呼ばれています。

その後、江戸時代後期頃になると、収穫した米で作った団子も供えられるようになりました。丸い団子が月を表していることや、保存しやすいことなどから、現在の「月見団子」が定着したとされています。

十五夜のお供え物には、月を象徴する「丸い形」が選ばれることが多く、芋名月と呼ばれていたころも、サトイモ、クリ、カキ、ナシなどがお供えされていました。「丸い形」は、縁起がいいということで、それらを食べる事で、健康や幸せになれると考えられていたようです。



すすきを飾るのはなぜ？

すすきは、神様をお招きするための「依り代（よりしろ）」として、お供えされます。本来は稲穂が用いられますが、この時期に稲穂が揃わなかったため、形が似ているすすきが使われるようになったと言われています。また、すすきには魔除けの効果があると信じられていたため、一年間無病息災で過ごせるようにとお月見の後、軒先につるすこともあったそうです。



ギンヤンマ

ギンヤンマは、日本で最もよく知られている大型トンボの一つです。鮮やかな黄緑色の胸部と、オスの腹部付け根にある美しい水色の模様が特徴で、水辺を力強く飛び回る姿は夏の風物詩となっています。

飛翔能力が高く、ホバリング（空中停止飛行）や急旋回を自在に行います。成虫はハエや蚊、小型の昆虫などを空中で捕らえる肉食性です。繁殖期になるとオスは池や沼の周辺で縄張りをつくり、水辺に沿って長さ約30m～50m、幅約5m～10mほどの範囲を巡回しながら他のオスを追い払います。

分類：トンボ目 ヤンマ科
 大きさ：体長7～8cmほど
 分布：北海道から沖縄まで
 日本全国
 出現時期：4月～11月頃



クロスジギンヤンマ

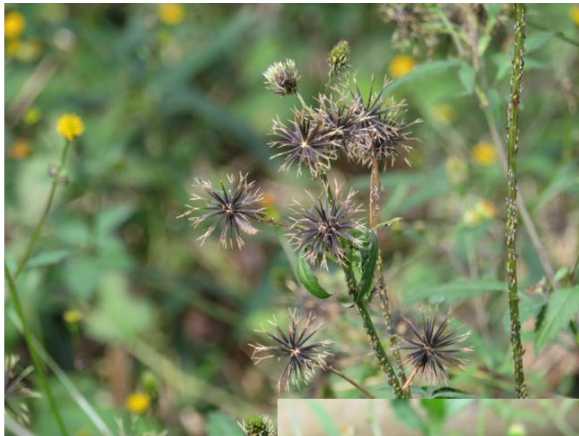
トンボの卵から羽化までの過程



コセンダングサ

コセンダングサの花は、筒状花だけが集まった黄色い花で、あまり目立ちません。むしろ花よりも、「ひっつき虫」として知られている植物です。種子の先端にあるトゲが人や動物に付着して運ばれ、分布を広げています。また、身近な雑草ですが、虫たちにとっては重要な蜜源植物でもあります。花にはハチやアブ、チョウなどが訪れ、秋の生きものたちを支えています。

学名： *Bidens pilosa* L. var. *Pilosa*
 分類：キク科 センダングサ属
 花期：9～11月
 分布：本州、四国、九州、沖縄
 生育環境：道ばた、河川敷、空き地など



ひっつき虫の仲間たち

衣服や動物にくっついて運ばれる植物の種子や果実の例

② アメリカセンダングサ キク科



白い舌状花と黄色い筒状花を咲かせる。道ばたや空き地などに生える。



種子の先端に2～4本のトゲがあり、先端に向かって小さな刺がある。衣服や動物の毛にしっかりくっつく。

③ オナモミ キク科



頭状花は紅紫色。実は球形で、トゲが密生する。

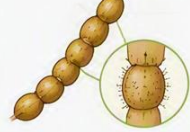


実全体にたくさんのトゲ（フック）があり、衣服や動物の毛にしっかりくっつく。

④ ヌスビトハギ マメ科



小さなピンク色の花を穂状につける。秋になるとさやが熟し、節ごとにちぎれて運ばれる。



さやが節ごとに分かれ、表面の細かい毛で衣服にくっつく。

⑦ ヤブジラミ セリ科



白い小花を多数つける。林縁や草地に多く、茎や葉に独特の香りがある。



細長い果実の側面に逆向きのトゲがあり、動物の毛や衣服に引っかかる。

なぜ「ひっつき虫」と呼ばれるの？

これらの植物は、自分で遠くへ移動することができません。種子や果実にトゲや毛などの仕組みをもち、人や動物の体や衣服にくっつくことで、より遠くへ運ばれ、分布を広げていきます。



衣服にくっつく



動物の体にくっつく



遠くへ運ばれて芽を出す

ホシホウジャク

ホシホウジャクは、スズメガ科に属するガの仲間です。昼間に活動することが多く、花の前で空中に静止しながら蜜を吸う姿がハチドリに似ていることから、「ハチドリのようなガ」として知られています。特に夏から秋にかけて、アベリアやサルビア、コスモスなど蜜の多い花の周辺で観察しやすくなります。ホバリングしながら吸蜜する姿は、自然観察の人気テーマの一つです。

分類：チョウ目 スズメガ科
 大きさ：約40～50mm（開張）
 分布：北海道、本州、四国、九州、南西諸島のほか
 出現時期：8～10月頃



ハチドリのように花の蜜を吸うスズメガ科の仲間たち

空中でホバリングしながら、長い口吻を伸ばして花の蜜を吸う姿が特徴です。

ホシホウジャク



・体長：約40～50mm
 ・出現時期：6～11月
 ・特徴：後翅の黄褐色が目立つ。最もよく見られる種類。

クロホウジャク



・体長：約45～55mm
 ・出現時期：6～11月
 ・特徴：全体的に黒っぽい。ホシホウジャクよりやや大型。

ホウジャク



・体長：約40～50mm
 ・出現時期：6～10月
 ・特徴：茶色っぽい体色が特徴。ホバリングして吸蜜する姿はハチドリのような。

オオスカシバ



・体長：約35～45mm
 ・出現時期：5～10月
 ・特徴：翅が透明でスカシバの仲間。ハチやハナアブに似ているが、スズメガの一種。

ヒメクロホウジャク



・体長：約30～40mm
 ・出現時期：6～10月
 ・特徴：クロホウジャクに似るが小型。同じようにホバリングしながら吸蜜する。

* これらの種類は、長い口吻と素早い羽ばたきで空中に静止（ホバリング）し、花の蜜を吸います。見た目がハチドリやハチに似ていることから、「ハチドリのようなガ」と呼ばれています。